

2 沿革

年度	療育関係	年度	関連事項
		1965	母子保健法が制定
		1968	大津市障害児父母の会からの請願を大津市が採択する(療育と健診の充実)
1973	発達相談員・保健師・ボランティアによる「母親教室」が開始(健康センターにて月2回)	1971	大津市民健康センターの設立
1974	大津市立心身障害者福祉センター(現 障害者福祉センター)の開設(におの浜)	1973	「保育元年」と称される障害児保育がスタート
1975	「親子教室」がスタート (心身障害者福祉センターにて、保育士1名)	1974	乳幼児健診大津・1974年方式 (「受診もれ、発見もれ、対応もれ」をなくす)
1977	「やまびこ教室」の開設(心身障害児通園事業)	1975	障害乳幼児対策・大津1975年方式 (乳幼児健診を中心とする早期発見、早期療育、保育園・幼稚園の保育・教育)
1981	「やまびこ園」の開設(精神薄弱児通園施設 やまびこ園週3回、やまびこ教室週1回)	1981	国際障害者年
1985	訪問療育の開始(週1回)	1982	大津市が「障害乳幼児対策を考えるシンポジウム」開催(「3つの鍵」「3つの留意事項」の確認)
1993	運営を大津市社会福祉事業団へ移管	1989	大津市総合保健センターの開設
2000	「やまびこ園・教室」新築移転(馬場) 運営を大津市に再移管 園は毎日通園になり定員10名増 教室は週1回から週2回へ	1997	母子保健法の改正(地域保健法施行) 大津市障害者福祉計画(おおつ障害者プラン)策定
2006	志賀町との合併(3月) 子ども療育センター「わくわく教室」が大津市立となり、下阪本以北はわくわく教室を利用	2000	大津市立やまびこ総合支援センター開設
2009	「わくわく教室」改修工事完了	2002	志賀町立子ども療育センター「わくわく教室」開設
2010	「わくわく教室」増設工事	2003	大津市障害者福祉計画改定 支援費制度がスタート
2011	「わくわく教室」定員5名増 東部子ども療育センター「のびのび教室」開設 児童デイサービス事業20名 発達支援療育事業20名	2004	「選べる福祉サービス滋賀特区」の開始(10月)
2012	法改正に伴い、「やまびこ園・教室」は児童発達支援センターに、「わくわく教室」「のびのび教室」は児童発達支援事業となる	2006	障害者自立支援法本格施行(10月) 総合保健センター移転 子育て総合支援センター「ゆめっこ」オープン 発達支援療育事業「ぱるランド」開設(10月)
2013	「のびのび教室」の発達支援療育事業にて3歳児親子教室開始	2007	大津市障害者福祉計画(おおつ障害者プラン)改定
2014	療育前親子教室が3療育に移管 計画相談・モニタリングの実施	2010	障害者自立支援法改正案成立
		2012	障害者総合支援法成立 児童福祉法改正に伴い障害児支援の改変実施
		2013	障害者総合支援法施行
		2014	やまびこ相談支援事業所開設
		2015	子ども発達相談センター開設

障害の有無にかかわらずすべての子どもが発達する権利を持ち、それを実現していく責務が社会にあるという発達保障の理念に基づき、大津市の障害乳幼児対策は進められてきた。

1973年から75年には保育園・幼稚園における障害児保育が開始、乳幼児健診体制が確立、親子教室が開設され、「乳幼児健診・大津方式」「障害乳幼児対策・大津方式」一乳幼児健診における障害の早期発見・早期対応から療育教室での早期療育・保護者支援活動を経て、保育園・幼稚園での保育、教育につながるという3つの柱を基本にしたシステムが確立された。

こうした障害乳幼児に対する発達支援システムの充実と実践の成果を基盤に、2006年には療育の対象を要発達支援児に拡大し、発達支援療育事業を開始、また2015年子ども発達相談センターを開設し乳幼児期から中学生までの相談支援体制が整備された。現在は要発達支援児の早期発見・対応も含めたシステムの再構築に取り組んでいるところである。

このようなシステムにおいて、療育は、人との関係の中で自分づくりを支援することを大切にしながら、発達上の課題や困難について保護者と一緒に考える育児支援、発達支援の役割を担っている。